



特定機能病院 / 地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪国際がんセンター 広報誌

# OICIだより

Take  
free

Osaka International Cancer Institute

季刊

Vol. 011

2023 Summer

## ★CONTENTS

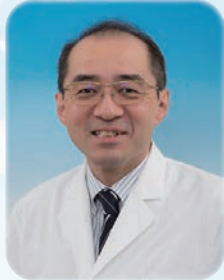
- 02 病院長就任のごあいさつ
- 02 病院長退任のごあいさつ
- 03 第49回ヨーロッパ骨髄移植学会年次総会にて  
当センター血液内科の活動が紹介されました
- 03 新型コロナウイルス感染症5類感染症への  
引き下げに伴う運用変更
- 04 スキンケア教室を開催しています!
- 04 成人病公開講座(オンライン配信)のお知らせ
- 05 看護の日のイベントを開催しました
- 05 大型医療機器更新に向けたご寄付のお願い
- 06 日本国際看護師・外国人患者受入れ医療コーディネーターの  
ご紹介
- 07 「OICIだより」に関するアンケートにご協力をお願いいたします
- 07 【連載】はい、こちら「がん相談支援センター」です
- 08 ご寄付について



## 病院長就任のごあいさつ

大植 雅之

2023年7月から病院長に就任しました大植雅之です。



2004年に旧大阪府立成人病センターに大腸外科チーフとして赴任してから早いもので20年目になります。

2016年に消化器外科主任部長、2019年に次世代がん医療開発センター所長、2020年に副院長兼希少がんセンター所長を務め、皆さまには大変お世話になってきました。病

院長としては、経営の健全化をまずは目指しますが、診療科・部門の医師、看護師、薬剤師、技師、社会福祉士、事務職、さらには基礎研究者、疫学研究者らの全職員との連携をさらに深め、一丸となって大阪国際がんセンターの「患者の視点に立脚した高度ながん医療の提供と開発」という理念を達成するために邁進いたします。

今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 病院長退任のごあいさつ

左近 賢人

2023年6月末日をもって病院長を退任しました。この時期に退任することになったことは予想外で関係者の方々に申し訳なく思っています。5年半ほど前に脳梗塞と胆管がんを患い、そちらの方は共に軽快しているのですが、1年ほど前から術後胆管炎を繰り返すようになり、体力の限界を実感するようになって、このたび退任することになった次第です。今までの皆さま方のご愛顧に対しまして感謝するとともに、急にこのような事態になったことをお詫び申し上げます。



振り返れば旧大阪府立成人病センターに赴任してから10年余りになります。この間センター内の全職員と共に理念にある「患者さんの視点」に立ち、「一日でも早く当センターで入院治療を」という願いを実現することに全力を尽くしてまいりました。また病院の上質化に留意しながら効率化にも取り組んでまいりました。まだまだ道半ばでございますが、さらなる病院の改善や病院機能の拡充は後任の大植 雅之新病院長が後を引き継いでやってくれますので、今後とも皆さまに倍旧のご支援をお願いいたします。

## 第 49 回ヨーロッパ骨髄移植学会年次総会にて 当センター血液内科の活動が紹介されました

血液内科 藤 重夫

2023年4月23日から26日までの間、第49回のヨーロッパ骨髄移植学会（EBMT）の年次総会がフランスのパリで開催されました。コロナウイルス感染のパンデミックに伴い、現地開催を含めた hybrid 開催も4年ぶりとなりました。本会は今回が49回目と歴史もあり、骨髄移植ならびに最近では細胞療法も含めた国際学会としては最大規模で今回も5,000人以上の参加者が世界90カ国以上から参加しました。

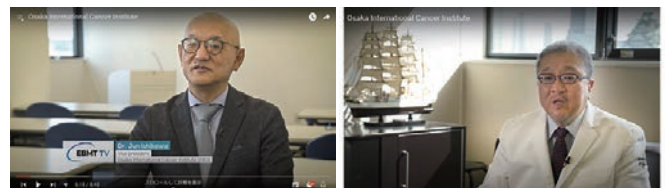
2022年にEBMTより、当センターの紹介をしないかとEBMT-TVというEBMTの広報活動を担当する部署の方より打診がありました。これまでEBMT-TVにて本邦の施設が紹介されたことはなく非常に名誉あることと考えましたが、残念ながらそのタイミングは本邦でもコロナウイルス感染のまん延で動画の撮影も困難な状況で断念せざるを得ませんでした。しかし、幸い今年再度打診を頂き、コロナウイルス感染者の減少したタイミングでもあり引き受けることとさせていただきます。

動画は5分ほどの短いものですが、副院長の石川より当センターでの骨髄移植の歴史について紹介があり、その後主任部長の横田より最近の当センターの造血幹細胞移植ならびに細胞療法を紹介し、最後に私から当センターで積極的に取り組んでいる成人T細胞白血病リンパ腫の研究について紹介させていただきました。

当科では今後も造血幹細胞移植ならびに細胞療法のさらなる発展に貢献し、国際的に価値のある研究成果を発信していきたいと考えております。



動画 URL の QR コード



## 新型コロナウイルス感染症 5 類感染症への 引き下げに伴う運用変更

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に変更されたことに伴い、面会などの運用を、次の通り変更しています。

当センターは、重症化リスクの高い患者さんが多くおられますので、ご理解・ご協力のほどお願いします。

### 主な変更内容

#### 面会

全日 14:00 ~ 19:00  
ICU 14:00 ~ 16:00

面会時間は  
15分程度

- ご家族（それに該当される方）のみ原則2名まで…10歳以下（乳幼児を含む）のお子さまの面会は一切禁止です。入れ代わりでの複数名の面会のご遠慮ください。
- 面会場所は病棟内のみ…1階ロビーを含む各フロアでの面会は一切禁止です。
- マスク着用  
※ 当センターには、免疫力が低く感染症にかかる重篤化しやすい患者さんが多くおられます。ご来院される方はマスクを着用してくださいませう、お願いします。

#### 各病棟、大阪城側デイルーム・食堂の使用

飲食禁止は継続したうえで、机いすを設置し運用を再開しています。

#### 入院時スクリーニング検査

当面は全件検査を継続します。ご来院の際は、手洗い、手指の消毒、マスク着用など感染対策にご協力ください。



ご理解・ご協力のほど  
お願いします

## スキンケア教室を開催しています！

SPRASH 委員会

SPRASH 委員会（スプラッシュ：がん薬物療法における皮膚症状対策チーム）では、患者さん向けスキンケア教室を年に4～5回開催しています。医師、薬剤師、看護師が協同し、毎回内容を変えながら実演を交えた講義を行っています。

6月2日に2023年度第1回スキンケア教室を開催しました。今回の内容は、「婦人科領域の治療とその副作用」「ヘアケアから頭皮ケア（スカルプケア）」、「爪障害や手足症候群の予防策として「フローゼングローブソックスの紹介」など、実際に手に取って体験する、盛りだくさんの内容でした。



正しい知識や対処を理解してもらうことは、患者さんのQOL（生活の質）を良好に保ちながらがんの治療を長く続けることにつながります。また、がんの治療には多職種によるサポートと患者さんへ正しい知識をお伝えすることも大事ですので、患者指導ができる看護師の育成に力を入れております。これからもより多くの患者さんにご参加いただけるよう活動していきたいと思っております。

できるだけ多くの方々にスキンケア教室を知っていたできるように前々回開催分からWeb配信を始めました。ぜひ、ご視聴ください。

スキンケア教室  
動画はこちら



## 成人病公開講座（オンライン配信）のお知らせ

当センターでは、成人病公開講座をオンライン配信しております。

- 第94回 「がんの予防と検診」
- 第95回 「最新の大腸がん診断と治療」
- 第96回 「知ってますか？ 泌尿器がん～基礎知識と最新治療～」
- 第97回 「皮膚がんと皮膚病変」
- 第98回 「がん経験者に対する人間ドック」
- 第99回 「脳腫瘍と脳卒中」

上記の講座は、当センターのホームページより視聴いただくことができます。

当センター診療科における専門の医師が、それぞれのがんの特性や、診療・治療に関する内容を詳しく解説、またそれらの医療に対する連携などの取り組みについて紹介しています。質疑応答の時間もあり、医師による活発な議論も行われるなど、充実した内容となっていますので、ぜひご覧ください。



第99回「脳腫瘍と脳卒中」より

成人病公開講座  
動画はこちら



## 看護の日のイベントを開催しました

### 看護部看護の日委員会

看護部看護の日委員会では、5月12日の看護の日にちなみ、「届けよう マスクの下の輝く笑顔」をスローガンに、入院患者さん対象で集合型イベントを開催しました。

患者さんへプレゼントするメッセージカード、イベント案内のためのポスター、パンフレットを作成しました。

イベントでは、看護部長から心温まるごあいさつのあと、部署の特徴を紹介するスライドショー、クイズ大会、看護師によるバルーンアート披露を行いました。

クイズ大会では、参加型で趣向を凝らし、“笑いが免疫力

を上げるかどうか”という問題では、患者さんから“笑う”って大事なことです」との感想を頂きました。

バルーンアート披露では、開催日まで何度も練習を重ね、犬、ねずみ、お花を作成し普段と違う看護師の姿を見ていただきました。参加された会場の患者さんからは、「楽しく過ごせました」「頑張ろうと思いました」といった前向きな言葉もたくさん頂き、笑顔あふれるイベントになったと思います。

この活動が看護の心や助け合いの心を育むきっかけとなれば幸いです。



届けよう マスクの下の輝く笑顔



## 大型医療機器更新に向けたご寄付のお願い

当センターは、2017年3月に現在の中央区大手前に移転し、新たな理念として「患者の視点に立脚した高度ながん医療の提供と開発」を掲げ、都道府県がん診療連携拠点病院として大阪府のがん医療の充実と安全で質の高い医療の提供に努めてまいりました。

移転後10年を迎える2026年度以降、当センターでは放射線治療装置やIVR-CT（X線で身体の中を画像として見ながら治療する方法）、手術支援ロボットといった大型医療機器が順次更新時期を迎えます。これらの中には1台で数億円かかるものもあり、計画的に更新を進めるものの、多額の経費が病院運営を圧迫することは避けられません。昨今の原材料や燃料の高騰、輸送コストの上昇などによる物価高や電気・ガス料金の値上げにより、一般家庭や事業所のみならず、病院も厳しい状況下にあります。治療を待つ患者さんに高度ながん医療を提供していくため、最新の大型医療機器への更新を進めてまいりたいと存じます。

つきましては、より多くの患者さんへより良い医療を提供するために、大型医療機器の更新に向けて、寄付を通じて当センターの取り組みを応援していただける方を募集します。皆さまからの温かいご支援を心よりお待ちしております。

<b>ご寄付の用途</b>	大型医療機器の更新資金として
<b>集中取組期間</b>	2023年度から2027年度まで
<b>目標金額</b>	3億円



## 日本国際看護師・外国人患者受入れ医療コーディネーターのご紹介

当センターでは、2020年4月から「ジャパン インターナショナル ホスピタルズ (JIH)」の認証を受け、外国人患者さんにも安全に安心して医療を提供できるように組織的に取り組んでいます。センター内には、現在3名の日本国際看護師 (NINA)・11名の外国人患者受入れ医療コーディネーターが組織横断的に活躍しています。



### ♪ 日本国際看護師より ♪

「遠隔医療通訳サービス」や「やさしい日本語」の使い方を全スタッフへ伝達し、外国人患者さんやそのご家族が安心して医療や看護を受けることができるようにサポートしています。 HCU 幸野 由加

外国人患者さんの外来での対応を行い、病棟のカンファレンスなどに参加して、シームレスな看護を継続できるように努めています。 内科・外科系外来 山田 真己

ICUはスタッフや医療機器が多く特殊な環境ですが、患者さんに寄り添い手術後も不安なく療養できるようにサポートさせていただきます。 ICU 武輪 真知

### ♪ 外国人患者受入れ医療コーディネーターより ♪

コーディネーター研修で、外国人患者さんの医療とは特別な対応をすることではなく、日本人が受けている医療を「言葉や文化が違うことによって安心・安全に受けられない」ということのないようサポートすることだと学びました。その実現を目指したいと思います。

国際部部长 消化管内科副部长 上堂 文也

外国人患者さんによりよい医療サービスを提供することは、日本人患者さんにとってもさらによりよい医療サービスの提供につながると思っています。どなたでも安心して安全で快適な医療が受けられるよう、国際化の面から院内環境整備に取り組んでいます。 国際部

地域の病院・診療所から紹介いただいた患者さんを対象として“早い・安心”をキーワードにスムーズに診療が受けられるクイックイン外来があります。外国人患者さんの問診、診察時に同席を専門・認定看護師 (リソースナース) と外来看護師が連携して行い、意思決定支援や精神的サポートを実施しています。

リソースナースセンター長 西野 幸子

外来と病棟を結び、外国人患者さん・ご家族が安全・安心な医療を受けられるように調整しています。

内科・外科系外来 看護師長 山田 眞佐美

患者さんとの関わりは病棟看護師が主となりますが、外国人患者さんが安心・安全に入院生活を送れるよう病棟スタッフと協働し支援しています。「やさしい日本語」や「メディフォン (遠隔医療通訳サービス)」の活用を推進しています。

退院支援担当者: 主任看護師 藤田 明子、矢野 則子



### ♪ 看護部長からのメッセージ ♪

「外国人患者さんにも日本人患者さん同様の医療サービスを届けたい」そんな思いで立ち上げた外国人患者受入れサポートチームも、はや2年が経ちました。その間、日本国際看護師や、外国人患者受入れ医療コーディネーターの活躍によって、外国人患者受入れサポートチームは活性化し、センター

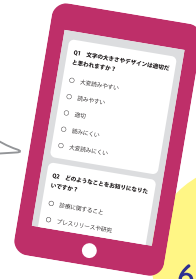
内の国際化対応力は徐々に向上しています。ここで働く職員が、大阪国際がんセンターの「国際」という冠にふさわしい力を発揮していくために、今後も患者さんの思いに寄り添いながら、センター内でのチーム医療に取り組んでいきます!

看護部長 山根 康子

## 「OICI だより」に関するアンケートにご協力をお願いいたします

当センターでは、旬なできごとなどを院外広報誌へ掲載させていただくことで、患者さんやご家族との架け橋になりたいと考えています。

よろしければ、ぜひ皆さまのお声をお聞かせ願えますと幸いです。



全部で  
6問です！

右記のQRコードをスマートフォンなどで読み取っていただき、Google フォーム上にてご回答ください。



電子媒体にてご覧いただいている方は、こちらのURLをクリックのうえアクセスすることも可能です。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdovYFoVLQR7ZERPemsPgp0TjQyrYJok8p1Hf8bfkE-X-FqnA/viewform?vc=0&c=0&w=1&flr=0>

## はい、こちら「がん相談支援センター」です

がん相談支援センター長 池山 晴人

【file 011】

自分のがんを、子どもにどう伝えればよいでしょうか。

がん治療を受ける際、家族や周囲の人々への伝え方は悩みの種です。通院や入院、療養などが生活に与える影響を考えると、家族や親戚、職場などに対して、どのようにがんのことを伝えるべきか頭を悩ませることもあります。特に、家族の中でも未成年の子どもに対してがんのことを伝える方法について悩んでいる方も多いようです。

未成年の子どもについては、年齢や背景、育児方針や家族関係などさまざまな要素があります。子どもに病気のことを伝えるべきか否か、伝える場合には誰がどのように伝えるべきかという問いに、明確な解答は存在しません。相談支援センターでは、個別の状況やお気持ちをお聞きし、家族や周囲の大人から子どもにがんのことを伝える際の基本的な考え方や、子どもと情報を共有することの重要性について一緒に考えます。そして、子どもに伝えたいことがあるけれども、具体的な伝え方が分からずに悩んでいる場合には、その方の意向に合わせた伝え方や内容を一緒に考えることができます。

がん診断は突然であり、ご自身のことで精一杯だったり、特に体調が思わしくない時期であると、「子どもに伝える」という課題に対応することが難しいと感じることもあるで

しょう。がん相談支援センターではこの課題のヒントとなる冊子や参考となる情報もご用意していますので、一緒に考えることで一助となれば幸いです。

(参考となる情報)

■ 未成年の子どもがいるがんと診断された方へ：子どもとの関わりを考えるときに

国立研究開発法人国立がん研究センター  
<がん情報サービス>

URL: <https://ganjoho.jp/public/support/communication/children/index.html>



■ 「ホープツリー」

がんになった親を持つ子どもへのサポート情報サイト  
<患者と家族の方へ>

NPO 法人 Hope Tree

URL: <https://hope-tree.jp/information/family/>



♥がん相談ホットライン ☎ 06-6945-1870  
(情報提供・相談専用)

♥希少がんホットライン ☎ 06-6945-1177

電話対応時間：月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）  
午前 10 時～午後 4 時

## ご寄付について

### 寄付者ご芳名

2023年3月21日～5月31日

受領日順／ご希望者のみ掲載

酒井 眞弓様、圖子 仁美様、織田 奉雄様、田島 重美様、  
KTT 貿易株式会社 代表取締役 井端 和郎様、若林 宏明様、  
米田 尚弘様、久保田 尚孝様、木寅 加奈枝様、柳田 榮様、  
東 平子様、中川 久美子様、奥嶋 一雄様、山本 博子様  
他 匿名者 14名

このたびもさまざまな個人や法人の方々から、貴重なご寄付を頂きました。ありがとうございます。  
この温かいお心遣いに感謝するとともに、このご厚意に報いるべく、これからも患者さんにより良い  
医療とサービスを提供してまいります。

## ご寄付のお願い

当センターは、常に「患者さん目線」で治療に当たるセンターでありたいと考えて  
います。患者さんの療養環境の改善や充実した医療を提供していくため、皆さまか  
らのご支援をお願いしています。

当センターのご寄付に関するホームページでは、ご寄付の活用方法や税制上の  
優遇措置について紹介しております。

皆さまのご支援を心よりお待ちしております。

お申し込み方法など詳細はホームページをご覧ください

<https://oici.jp/center/effort/donation/>



## OICIだより 2023年夏号〈季刊〉



特定機能病院 / 地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪国際がんセンター

発行 大阪国際がんセンター

編集 事務局 総務・広報グループ

〒541-8567

大阪市中央区大手前 3-1-69

TEL.06-6945-1181 (代表)

2023年7月発行



ホームページ



<https://oici.jp/>

フェイスブック



[@oici.jp](https://www.facebook.com/oici.jp)

ライン



<https://lin.ee/Z0cDHhU>



### ◆電車でご来院の場合

Osaka Metro「谷町四丁目駅」北改札口から徒歩約5分 /  
京阪電車「天満橋駅」東改札口から徒歩約10分

### ◆お車でご来院の場合

東大阪線「法円坂出口」より約5分 / 東大阪線「森之宮出口」より約8分

※ QR コードは (株) デンソーウェブの登録商標です。